
転生者...左腕に十字架を byネギま!

聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生者：左腕に十字架を

byネギま！

【Nコード】

N9727X

【作者名】

聖龍

【あらすじ】

自己満足で書いた小説です

暇潰し位に見てください

処女作です
かなり駄作

転生するらしい(前書き)

二次創作

難しい

転生するらしい

.....「ここどこだ？」

今俺はまっしろな空間にいる...
ここはどこだ？...

「あの〜...貴方は？」

ビクッ!!!

気づいたら俺の後ろに知らねえおっさんがいた
誰だこいつ

「おっさん、誰だ？...」

「僕かい？僕はね神様だよ！」

.....は？

「おっさん頭大丈夫か？…なんなら医者を」

「いやマジだから、信じて!!」

ただいま割愛中

「つまりこの俺は死んでいて、その死は、あんたの手違いだと？…」

「まあねえ
ぶっちゃけね」

殺してやろうか？
このくそ神様は？…

「でも安心してくれ
君は転生出来るからさ！」

君は転生出来るからだと？

「当たり前だ
手違いで死んでたまるか

」

「まあだね
じゃあまずは説明していくよ
君の転生先はネギま！の世界そして君には超チート級の魔力と気と
5つの能力またはアイテムが与えられるよ！」

能力またはアイテムが与えられるか…

「当然内容は俺が決めていいのか？」

「もちろんだとも！」

さあ決めてくれ！」

ノリノリだな…神様は

「じゃあまずば

肉体と頭脳の限界突破

刀語の見稽古

ブリーチの一護の斬月

ディーグレのアレンの左腕神ノ道化クラウンクラウンの状態
であと超直感をくれ」

「あいよ！

任せてくれたまえ」

次の瞬間俺の体が光に包まれた

「なっ！！なんだこれは！？」

「落ち着きなよ

直ぐに終わるからさ！！」

五分後

「はい出来たよ！」

あと容姿も良くしといたからね」

「……なんか変わった？」

「直ぐにわかるよじゃあ赤ちゃんからやり直しだけど、頑張っ
てね」

L

えっ……いきなり！

「バイバイ」

L

[illegible]

!!!!!!!!!!!!

そして俺の冒険が始まった

転生するらしい(後書き)

つかれた

けど頑張るぜい(*)
ヾ

プロフィールらしい(前書き)

今回は主人公のプロフィールです！

では

どうぞ

プロフィールらしい

名前

鬼崎 一真 キザキカズマ

身長 173

体重 61

年齢 16

容姿

黒髪で細身だが筋肉質
顔立ちはやや中間的な感じ

通称

闇の聖職者 ダークエクソシスト

生まれつき左腕が異常な為親に捨てられた少年
拾われて七歳まで育てられた村も悪魔に消された
それからは黒の教団に育てられ、今では大物ルーキーとして期待されている。

麻帆良学園には依頼で編入することになった

能力

神の道化

クラウンクラウン

左腕をカギツメのように変化させ武器として使うほかにも鎧としての能力もある

斬月

黒い刃の細長い太刀

斬撃を飛ばし敵を切り裂く

卍解すると十字架の刻まれた大剣となり触れない物を切り裂く
普段はブレスレットの状態

見稽古

一目見ただけで体術、剣術など様々なことを会得できる

超直感

生き物であればその物の次の動きを完璧に読むことができる。
鍛えれば機械でも先読みできる

プロフィールらしい(後書き)

こんな感じです

次回は麻帆良に行きます

では次回

過去の話らしい（前書き）

今回は主人公の過去の話です

ではでは

過去の話らしい

「父さん、母さん、ただいま！」

俺の名前は鬼崎一真

季節は冬、歳は六才、今学校から帰って来たところだ
ちなみにこれは俺の夢だ

俺の過去にあつた最悪の事件：

「お帰りなさい、一真
直ぐに夕食にするからね」

母さんも父さんもこの左腕のせいで捨てられていた俺を拾って育て
てくれたとても優しい人たちだ

「おお、一真帰ったか！
今日は学校でどんなことがあつたんだ？」

今のは父さんだ

俺は父さんに今日学校であったことを
楽しげに話した

父さんもそれを微笑みながら聞いていた
そして

「ご飯が出来たわよ」

ほら、一真、父さんも手伝って!」

キッチンから母さんの声が響き
俺と父さんは「はい」と返事をし
キッチンに向かった

「「「ごちそうさまでした!」」」

家族での夕食を終え

俺は母さんから「父さんとお風呂に入りなさい」と言われて俺は父
さんと風呂に向かった

「一真、きちんと10数えて上がるんだぞ!」

「はい!」

そんな会話をして俺は上がった

「あら、一真上がったのね

はい！ココア、飲んだら歯を磨いて寝るのよ？」

「はい……ふあ……」

俺はココアを飲み、歯を磨いて
ベッドに入り静かに眠りについた

夜未明

深

ドカーーーーーン!!!!

騒がしさに俺は目をさました

《難としても

ここは防ぎきるんだ!!》

《そうだ!...あのこだけでも...一真だけでも...》

《そうだ!...あのこは、俺達世界の希望の一つだ!》

!!!!!!?

この会話に俺はただ事ではないと思い
急いで外へと飛び出した

!!!!!!

そこには俺の知る村とは変わり果てた光景があった

「!!!—真!なぜここに!」

そこには血まみれの父さん、母さん
倒れ、死んでいる村の人たちがあつた

「ほう?…そのガキ
なかなかの魔力と気だ、それにとて強い光を感じる」

その声の主は異様な姿の悪魔だった

「ハデス!!!…貴様!」

その声に村の人たちが杖や剣を持って
俺を守るように囲んだ

「この子だけは…世界の希望だけはやらせない!」

「ほう？…なら守ってみろ
深淵の業火」

その一言と同時に俺意外すべてが業火に包まれた

そして俺意外すべてがなくなった

「父さん、母さん! …みんな? …」

「障壁か、まあいい
あとは、お前だけだガキ」

そして俺の中で何か切れた

「返せ……みんなを返せええええ！！！」

「！……イノセンスか、」

気がつくとお前の左腕が異常な、カギツメのような形にそれに肩には白い毛のついたマント、顔には目を隠すような銀色の仮面が着いていた

「はぁ…はぁ…はぁ…何？…これ？」

「それはイノセンス、貴様の力だ」

「ち…力？」

「そうだ、貴様はここで殺すにはおしい」

そしてハデスは俺と誓いを立てる

いつかお前が強くなったら俺と戦え

待っているぞ希望の子

そしてハデスは俺の前から消えた

その後俺は黒の教団に引き取られ
エクソシストとして育てられた

「んっ……はぁ……糞な夢だ」

俺は目を覚ました

過去の話らしい(後書き)

どうでしたか？

まあネギくんと被りましたが

気にしないで

では次回

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9727x/>

転生者...左腕に十字架を byネギま!

2011年11月24日19時01分発行